

## EATI 上演に向けて

EATI22 in Fukuoka は8月5日より開催しており、先日前半のプログラムである『オセロー』の上演を終える事が出来ました。そして現在後半戦『藪の中』の創作が行われています。日本、韓国、台湾の演劇人が大川市に新しく生まれた CAMIF という施設に滞在し、共同生活を行いながら創作を続けています。EATI は東アジアの演劇人が、舞台創作を通して相互の文化芸術を深く享受し、国家の理念と対立を超えた和合と共存の道を創造していくことを目的として進められている国際プロジェクトです。このような試みを日本で開催できることを誇りに思っております。しかしながら、今日本は世界で最も感染者が多い国でもありますので、開催にあたっては様々な困難があるのも事実です。現在も運営内部や参加していた俳優の中にコロナに感染してしまった人も出てきております。検査や隔離などの対応に追われており、一般的には、即刻中止にすべきという判断もあるかと思えます。ましてや、演劇は実際にお客様を招いて一つの空間を共有することになりますので、そのリスク的観点からも非難の声があるかもしれません。しかし、私はあえて言いたいのです。それでもやる必要があることも人類にはあるのではないかと。私たちのやっていることは決して安全ではありませんし、最悪の場合感染し命を落とすかもしれません。しかし、私はこのような困難な時に、国境をこじ開けてでも行われる、人間が直接会って行う交流には非常に大きな意義があると考えています。勿論、可能な限り危険を回避する方策は施しますが、「安全」ではありません。その上で、同じ時間と空間を共有するという道を人類が選び、踏み出す事が出来るか。今世界的に問われている問題に正面から向き合っていきたいと思えます。

EATI 理事 百瀬 友秀